



滝川高等学校 メルゲド総合学校 交流報告

МЭРГЭД лаборатори сургууль

3月9日、滝川高校とメルゲド総合学校の第1回オンライン交流会が実施されました。滝川高校からは26名、メルゲド学校からは18名の生徒が参加し、1時間30分ほどの交流が行われました。

交流事業は、

滝川高校の参加希望生徒と、メルゲド学校で日本語の授業を選択している11年生(高校2年生段階)の生徒のオンライン交流から始まることになりました。

使用言語は、日本語です。

メルゲド学校の生徒は、授業の中でプレゼンテーションのスライドを作成し、日本語で紹介する練習を重ねて交流当日を迎えました。メルゲド学校では現在、日本語担当のドラムスレン先生が一人で全ての日本語の授業を担当しており、日本人と話す機会が得られない状況にあります。「生徒たちに、日本語で話す機会を作ってあげたい」というドラムスレン先生の希望もあり、日本語での相互紹介から交流がスタートすることになりました。

滝川高校から参加するのは、国際交流や、教育に興味のある生徒26名です。

交流に臨む滝高の生徒は、

- ・日本語を母語に持つ者としての配慮を常に忘れず
- ・「外国語である日本語」で話してくれる相手への敬意を忘れず
- ・見本となる日本語を話すこと

の3つの心構えのもと、プレゼンテーションの作成を行いました。

スライドの下書きには、日常的に意識せずに使っている「話し言葉」や、難しい表現が含まれており、容赦なく添削の赤ペンがはいりました。それでも、「日本語を母語に持つ者としての責任」に気づいた生徒たちは、「これは正しい日本語なのか」「モンゴルでは通じない概念が含まれていないか」「端的に説明するにはどうしたらいいか」などに注意しながら、スライド作成を進めました。

当日は、

両校の生徒が3つずつのグループに分かれ、組み合わせを入れ替えながら交流を行いました。プレゼンテーションのテーマは、
滝川1班 「滝川市の紹介」
滝川2班 「北海道の紹介」
滝川3班 「滝川高校の紹介」
メルゲド1班「メルゲド学校の紹介」
メルゲド2班「メルゲド学校の行事の紹介」
メルゲド3班「アルバイヘル市の紹介」です。

交流は、「こんにちは！」という挨拶の声からはじまりました。

最初に自己紹介をした後、メルゲド学校の生徒によるプレゼンテーションが始まりました。予想を上回る日本語の上手さに歓声があがり、交流は楽しい雰囲気が進みました。10分ほどで滝川高校の発表が始まります。大きな声で、しっかりとした発音と正しい日本語を使った紹介が始まりました。

滝川高校の生徒たちは、探究の授業などでプレゼンテーションを経験しています。しかし、今日ほど「伝えよう」という意識を持って臨んだことはなかったように思います。

※ 次号では、プレゼンの内容を紹介します。

